

子供を見守るためのデータ連携

令和3年11月9日(火)

内閣府（子どもの貧困対策担当）

貧困状態の子供の支援のための教育・福祉等データベースの構築に向けた研究会について

概要

- 子供の貧困対策に関する大綱（令和元年11月）や秋の行政事業レビュー（令和2年11月）等を踏まえ、文部科学省・厚生労働省の参画の下、貧困状態の子供の情報に詳しい有識者、先進的な取組を進めている都道府県・政令指定都市・市町村の教育・福祉部門の担当者、小学・中学・高校の校長を構成員として、市町村等にある教育や福祉等に係る個別の親・子供の情報を活用して、
 - ① 支援が必要な貧困状態にある子供を広く把握するとともに、
 - ② 把握した子供に対し、プッシュ型で地域にある学習支援や居場所などの支援につなげていくためのデータベースのフォーマットのひな型を令和3年度末までに作成すべく、これら有識者等による研究会を立ち上げ、調査研究を実施中（※）。
- ※ EY新日本監査法人に委託して実施。

《参考1》

- 子供の貧困の実態は「見えにくく、捉えづらい」とされる中、「子供の貧困対策に関する大綱」（令和元年11月決定）において、
 - ・ 支援が行き届いていない、又は届きにくい子供・家庭に配慮して対策を推進
 - ・ 市町村において、福祉や教育等の取組の過程で得られた個別の子供の状況に関する情報を活用して、支援を要する子供を広く把握し、効果的な支援につなげていくことが盛り込まれている。

《参考2》

- 秋の行政事業レビュー（子供の貧困・シングルペアレンツ問題）指摘事項（令和2年11月）
 - ・ 自分が支援対象であることに無自覚な人、潜在的に支援を必要とする人を含め、必要な支援を必要な人に十分に行き渡らせるためには、「ワンストップ化」や「プッシュ型」の支援を実現する必要。
 - ・ 今後、国（内閣府・文部科学省・厚生労働省）は、こうした支援を実現するため、デジタル・データの特性を活かしたデータ・ベースに関わる共通インフラを主導して構築することを検討すべき。

研究会構成員

【有識者】

- 山野 則子 大阪府立大学学長補佐 地域保健学域教育福祉学類教授
末富 芳 日本大学文理学部教授

【地方公共団体】

- 笹山 衣理 滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局子ども未来戦略室長
大林 義宜 滋賀県教育委員会幼小中教育課生徒指導・いじめ対策支援室長
西端 千恵 兵庫県神戸市こども家庭局こども未来課長
小菅 康生 兵庫県神戸市教育委員会学校教育課生徒指導担当課長
込山 浩良 千葉県柏市こども部こども福祉課長
藤崎 英明 千葉県柏市教育委員会児童生徒課長
川本 重樹 大阪府能勢町教育委員会学校教育課参事

【学校長】

- 大字 弘一郎 全国連合小学校長会会長
宮澤 一則 全日本中学校長会会長
長塚 篤夫 私立順天学園（中学・高校）校長

【省庁】

- 若林 徹 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課課長補佐
石原 珠代 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課課長補佐

○：座長

検討状況

【これまでの議論等】

- 地方自治体等の先進な取組等についてヒアリング
 - ・大阪府箕面市「子ども成長見守りシステム」
 - ・山野則子 大阪府立大学教授「学校版スクリーニング」
 - ・阿部彩 東京都立大学人文社会学部教授兼子ども・若者貧困研究センターセンター長ヒアリング等
- 地方自治体における子供の貧困対策等に関する個人情報の保有状況等に関する調査
- データベースの対象範囲について議論
- データベースに入れるべき項目について議論
 - ・家庭の経済状況、教育・生活状況 等

【今後の予定】

- データベースに入れるべき項目について更に議論
- 支援の必要性の判定方法
- 個人情報共有の在り方やデータベースを取り扱う組織・職員の範囲等

データベースに盛り込む項目の検討に当たっての視点

- 全国の自治体や学校の現場が、最小限の負担で、データベースを用いて要支援の子供やその親を発見し、プッシュ型で必要な支援につなげていけるよう、以下の2点を同時に満たす項目を、データベースに盛り込んでどうか。
 - ① これまでの学術研究等を踏まえ、子供の貧困と強い相関関係がある項目
 - ② 全国の自治体や学校の現場で容易に実態を把握できる項目

データベースの項目の検討に当たっての課題

- 子供の貧困対策の支援施策の多くは市町村が実施主体であり自治事務である。全国の自治体の現場に活用していただくためには、負担感に配慮しつつも、メリットを説明し、理解を得ながら進めていく必要がある。
- 自治体ごとに、個別業務で管理する項目やその形式は様々。データの客観性をどう担保するのか、項目によっては、担当職員の主観的評価を活かすことも必要ではないか。
- 福祉に関しては、支援制度の利用の有無の把握が可能なのに対し、教育に関する情報は不足しており、どの情報をどう把握するかは検討が必要。
- 指導要録の内容の共有は、可能なのか。特に、成績やメンタルなど、個人の資質を自治体内部で共有することはどうなのか。
- プライドを持って子供や生徒に日々接して支えている現場職員的意思を尊重し、あくまでも現場判断をサポートするツールと位置づけ、データ至上主義に陥らないことが重要。
- 働き方改革が強く進められる中、現場の仕事を増やさない視点も重要ではないか。教育現場では、現場感覚のみに蓄積される情報や、電子管理されていない情報もあるため、標準化や電子化の支援が必要ではないか。
- 教育情報の把握のために民間のテストを利用する場合、コストがかかることに留意が必要。

議論中の項目候補（例）

家庭の経済状況

- 生活保護の利用状況
- 生活困窮者自立支援事業の利用状況
- 就学援助の利用状況
- 児童扶養手当の利用状況
- 水道料金の支払・滞納状況
- 給食費・教材費の支払・滞納状況
- アルバイトの実施状況

学校生活の状況

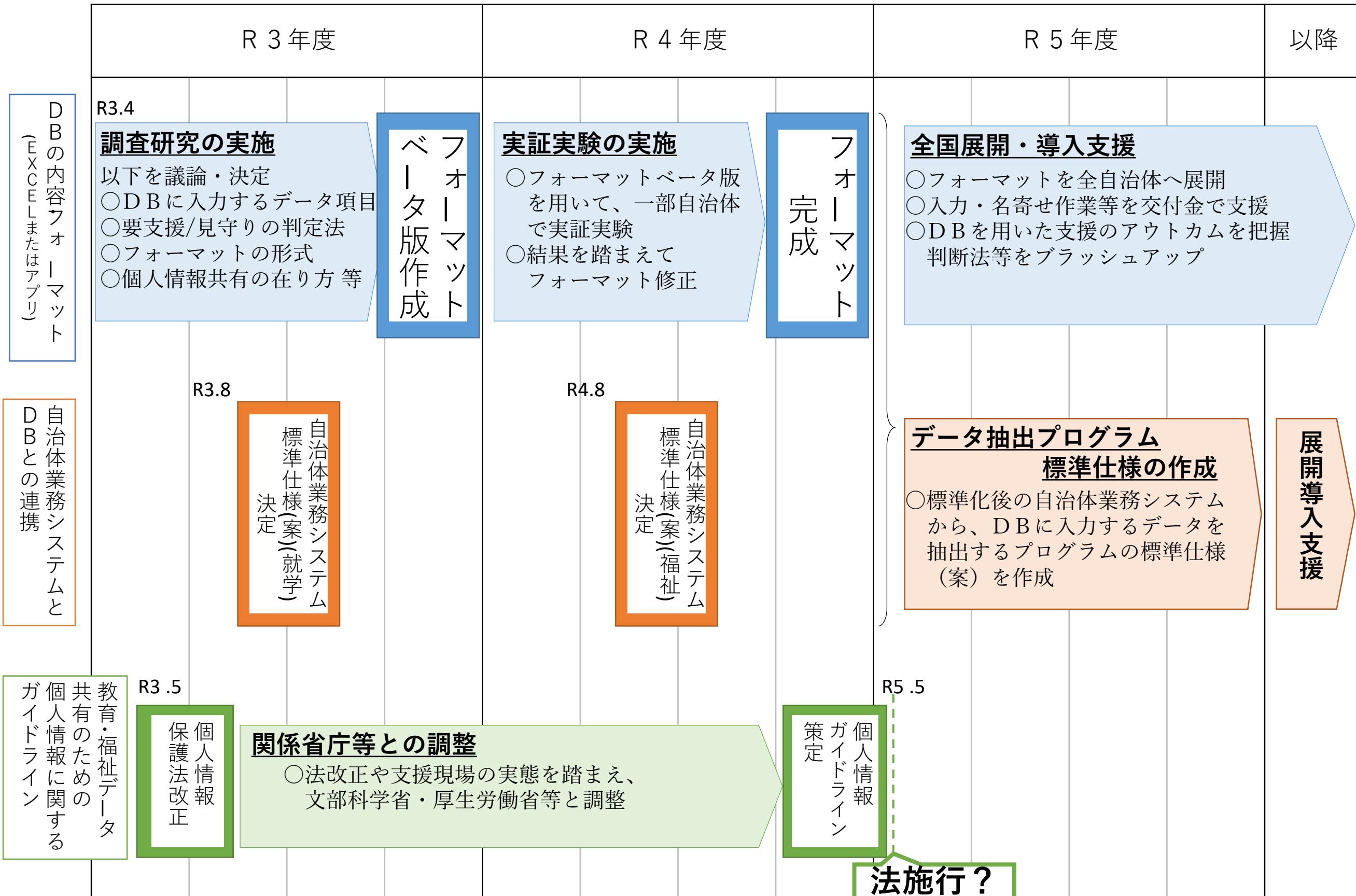
- 欠席日数
- 遅刻・早退の状況
- 学習成績・理解度
- 学習習慣
- 勉強時間・場所の有無
- 宿題の実施状況
- 部活動の実施状況
- 授業中の様子
- 学校生活への意欲
- 忘れ物
- 健康状態
- 虫歯の本数
- けがの状況・頻度
- 保健室への来室状況
- 摂食状況・食事の頻度
- 友だちとの関係（含：いじめ）
- 言葉遣い
- 悩みごとの有無
- 服装・身だしなみ
- 発達障害の有無
- 特別支援教育の利用
- 高校中退

家庭生活の状況等

- 親子関係
- 家庭との連絡状況
- 家庭での様子
- 保護者の就労状況
- 家族構成
- 居住形態
- 転出入歴
- 要保護児童対策地域協議会を通じたデータ
- 1歳半健診・3歳児検診等母子保健を通じたデータ
- 児童養護施設への入所状況
- 外国人児童生徒

等

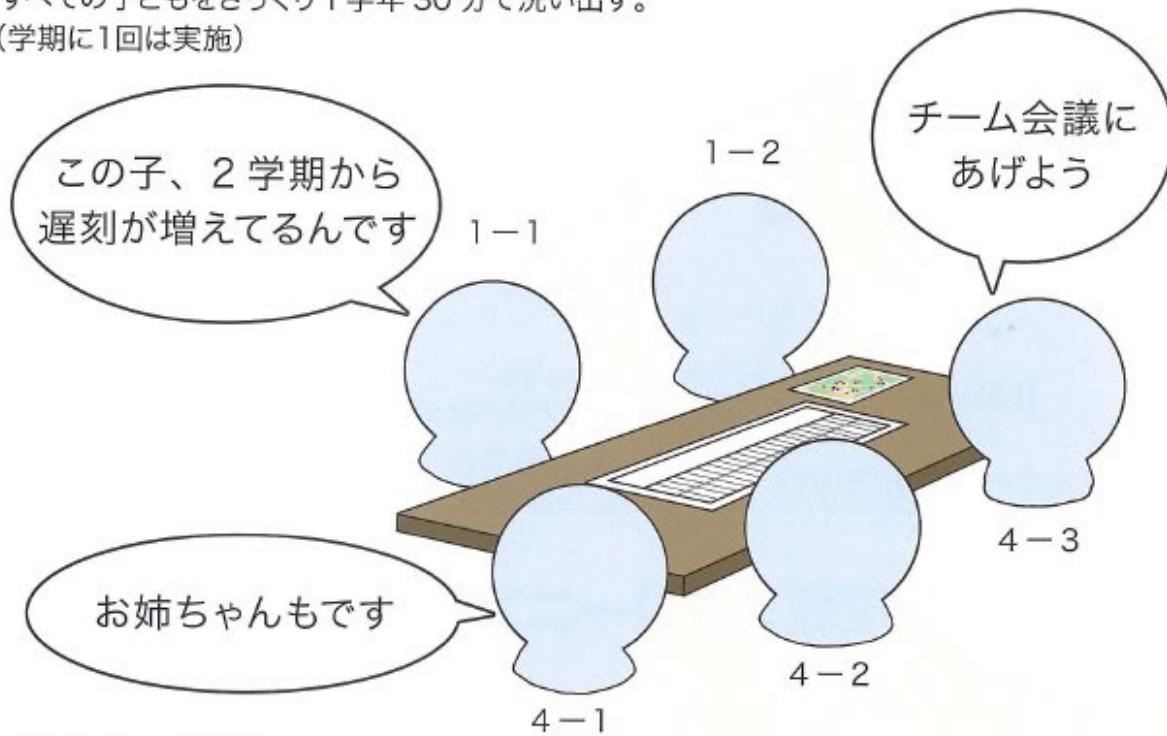
データベース構築・普及に向けた工程表



学校版スクリーニング

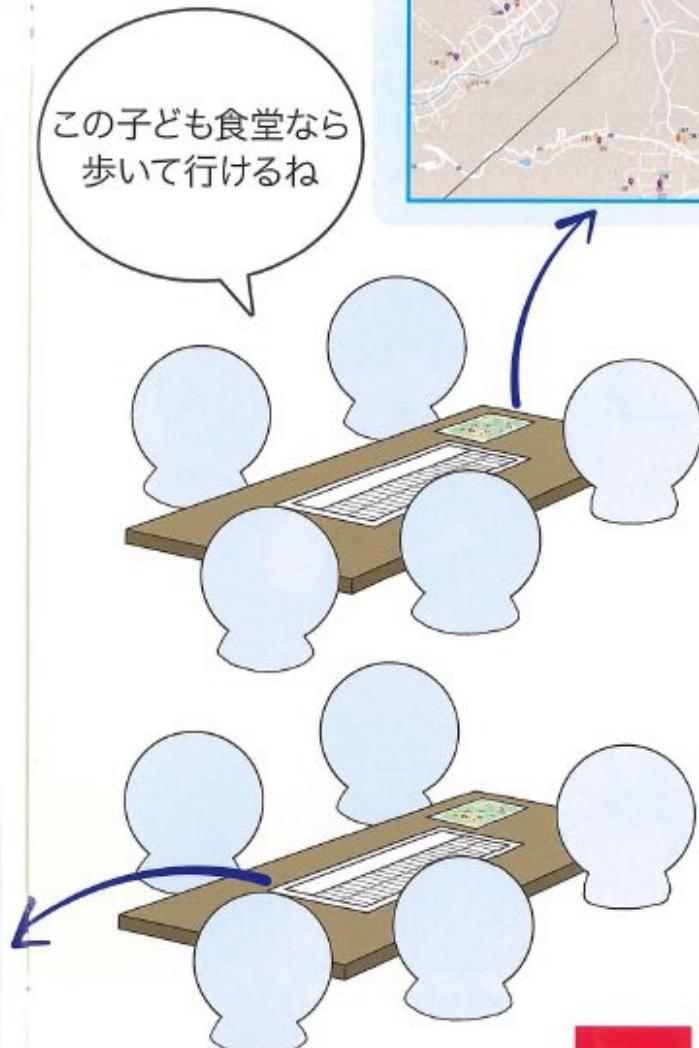
② スクリーニング会議とは

すべての子どもをざっくり1学年30分で洗い出す。
(学期に1回は実施)



ツール② 資源マッピング

地域にある社会資源（子ども食堂、スポーツチームなど）をマッピングした用紙を活用してスクリーニングを行うことで、教職員にとって地域支援が「使えるもの」というイメージになり、対応の幅が広がる。



学年会議
OR
低学年・中学年・高学年
グループ
OR
1・4年など2学年ずつの
グループ

データに基づいて A・B・C (P4) をイメージしつつ…
チーム会議にあげる & 教員のワンポイント対応を考案!

担任や気づいた人の主観で決めるのではなく、複数人で判断する。

ツール① スクリーニングシート

全児童生徒について、担任・養護教諭・事務職員・管理職などが、入力ルールに従って数値を入力する。(2=とても気になる、1=気になる) 校内の各所が把握している遅刻や保健室データを一本化。

スクリーニングシート (児童・児童福祉司の共有シート)										スクリーニングシート (教職員が各自把握) のイメージ									
氏名	性別	学年	遅刻回数	保健室利用回数	その他	担当	備考	氏名	性別	学年	遅刻回数	保健室利用回数	その他	担当	備考				
山田 太郎	男	1年	2	1		山田		山田 太郎	男	1年	2	1		山田					
田中 花子	女	2年	1	0		田中		田中 花子	女	2年	1	0		田中					
佐藤 健一	男	3年	0	2		佐藤		佐藤 健一	男	3年	0	2		佐藤					
鈴木 美咲	女	4年	1	1		鈴木		鈴木 美咲	女	4年	1	1		鈴木					

学校版スクリーニング

③ 校内チーム会議とは

スクリーニング会議において「校内チーム会議にあげる」に○がついた子について、SSW などの多職種を交えたチームで検討を行い、支援の方向性を具体的に決定する。
【活用ツール：スクリーニングシート (P2)・資源マッピング (P3)】

お母さんに
いつも良い所を
見せようとするから、
学校ではしんどそう
なんだ…。

B 地域資源の活用

- ④ 学習支援
- ④ 居場所
- ④ 子ども食堂
- ④ 地域人材
- ④ 家庭教育支援等の活用

家庭児童相談室も交えて
ケース会議を開きましょう。

スクールサポーターの方に
協力してもらえるかも
しれませんね。

A 教職員の関与

- ④ 学年団
- ④ 担任
- ④ 養護教諭等のアプローチ



C 専門機関の活用

- ④ 児童相談所
- ④ 家庭児童相談室
- ④ 少年サポートセンター
- ④ 教育センター
- ④ 福祉制度等の活用

ケース会議

食生活が気になる。
こんな話、こんな場がないと話す機会がなかった。